

Title	目次等
Author(s)	
Citation	地盤に起因する建築紛争の解決に向けたワークショップ (2013)
Issue Date	2013
URL	http://hdl.handle.net/2433/175683
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

地盤に起因する建築紛争の解決に向けたワークショップ

目 次

ワークショップ開催にあたって

岩崎 好規 委員長，三村 衛 副委員長，諏訪 靖二 主査

1. 近接工事等の影響や地盤膨張による紛争事例 岩崎 好規（地域地盤環境研究所）	1
2. 振動に起因する紛争事例の現状と振動公害問題 早川 清（立命館大学名誉教授）	15
3. 基礎・地盤に関する紛争の類別事例 －因果関係の特定と修復技術の現状と課題－ 高幣 喜文（タハイ建築技術研究所）	29
4. 擁壁でまもられた宅地での建築紛争の事例 安川 郁夫（地球システム総合研究所）	41
5. 宅地擁壁のトラブル事例 池田 基行（大和ハウス工業）	53
6. 戸建住宅の不同沈下事例 －隣地掘削・腐植土層への盛土・盛土の圧縮沈下－ 深井 公（積水ハウス）	57
7. 改良地盤における宅盤の膨張事例 松谷 裕治（積水ハウス）	65
8. 建設業界における地震被害に対する法律見解 江副 哲（匠総合法律事務所）	71
9. 宅地における地盤補強工事による既存擁壁の事故例 金 哲鎬（報国エンジニアリング）	85
10. 裁判事例から見る建築紛争の実態 －地盤・基礎に係わるもの－ 諏訪 靖二（諏訪技術士事務所）	93

地盤に起因する建築紛争の解決に向けたワークショップ開催にあたって

主催：京都大学 一般共同研究委員会

“地盤事故・災害における法地盤工学の展望と提言”

The Perspective and Proposals of

Forensic Geotechnical Engineering for Ground Failure and Disasters

委員長 岩崎 好規

幹事長 三村 衛

主 査 諏訪 靖二

裁判の中でも医事紛争や建築紛争においては、高度な専門事項が扱われるために、法の適用に際して裁判官だけでは妥当な判断を導くことが困難な場合が多く、争点整理などに時間がかかり、裁判も長期化する傾向にあった。そのような事態を解決するために、最高裁判所は2001年法曹界と建築界の委員からなる建築関係訴訟委員会を設置し、合理的期間内に適正に解決するための方策を審議して、2005年6月に「建築関係訴訟委員会答申」が出された。

日本建築学会に、「司法支援建築会議」が設置され、裁判所の要請に応じて鑑定人や調停委員の選定および推薦を実施するように組織化された。

建築紛争の中でも、建築物の基礎や地盤が原因である沈下や傾斜、あるいは、基礎の掘削時や建築背面斜面の地盤崩壊などは、建物の瑕疵にかかわる一般建築紛争とは異なり、地盤工学にかかる専門的領域に属する問題である。

本答申による新しい制度運用から5年が経過し、地盤にかかわる紛争の事例も積み重なってきた。このような地盤工学における紛争解決のための調停や鑑定作業の取り組みは、法地盤工学として発展しつつあり、既往の判例や調停を収集・整理し、問題点の指摘や今後のあり方を考究し、地盤工学の専門的知見を通してきた。

京都大学防災研究所からは、京都大学 一般共同研究として研究課題の採択により、この2年間の活動の支援を戴いた。感謝の意を表す。

今年是最終年度に当たり、「地盤に起因する建築紛争事例」に焦点を当てて、ワークショップを開催したところ、日本全国から多くの申し込みを戴いた。会場の状況から130名で受付を終了したが、このテーマの関心の高さを示している。

地盤工学における設計・施工・維持管理分野での失敗や不具合は、継続発生しており、裁判紛争もあとを絶たない。今後も、地盤工学の社会的貢献の一つとして”法地盤工学”の成長を見守りたい。

事務方を引き受けて戴いた京都大学防災研究所地盤災害研究部門地盤防災解析分野の井合進教授、ならびに飛田哲男助教、湯山 和香さんおよび 鶴井 千尋さんには、多大な労苦をお掛けした。皆様に、深甚の感謝を表したい。